

瓦屋寺古墳群

瓦屋寺山古墳群

瓦屋禅寺参道の両側には、古墳時代後期（6世紀以降7世紀頃まで）の古墳が57基確認されています。瓦屋寺山古墳群の特徴は、縦壙式と呼ばれる羨道から石室が一段下がった形式のものと、一般的な羨道から同一床面で石室に入る形式のものが混在している所にあります。近くには吉住池があり、縄文時代から集落が営まれた地域で、現代に至るまで人々の暮らしが連綿と営まれてきた豊かな地域であると言えます。瓦屋寺山古墳群の被葬者は、こうした地域の開発に携わった人たちであると考えられます。



③ 53号古墳



④ 47号古墳



⑤ 48号古墳

北山古墳

北山古墳は昭和48年6月土取り作業中に発見され、発掘調査後に復元したものです。瓦屋寺古墳群中最も大きく、工法も精巧であり、7世紀頃の湖東に君臨した豪族か帰化人の首長の墳墓といわれています。



⑮ 北山古墳（入口の石積）



⑮ 北山古墳（石室内）

—幽玄の楓寺— 瓦屋禅寺

聖徳太子ゆかりの禅寺

当山は1400年以上の歴史があり、聖徳太子が大阪四天王寺建立の際、山中の土を用いて10万6千枚の瓦を造らせその瓦を用いたのが寺名の由来となっています。参道の横には古代の瓦窯跡があり、ここから出土したとされる古い瓦が寺に保管されています。

御本尊は聖徳太子さまが斧で一刀されたとされる国重要文化財の十一面千手観音像で、御本尊の周囲には聖徳太子さま御作で東近江市指定文化財の四天王像が安置されています。



瓦屋禅寺へのアクセス

住所 東近江市建部瓦屋寺町 436
<http://www.kawarayaji.com/>
 TEL 0748-22-1065
 拝観時間 8:00 ~ 16:00
 拝観志納金 500円（秋季のみ）

瓦屋禅寺参道

⑪ 弁慶の背比べ石



源義経が瓦屋寺に参詣した際、弁慶の大男振りを見て驚いた寺の坊さんが「この石と背比べなしか」と持ち掛けました。弁慶はこれを聞き「わしに勝つものはない」と石と背比べをした所、石の方が高かったので弁慶は怒ってその石を蹴飛ばしました。そうすると石の先端が割れて飛んで行ったと言われています。

⑩ 白蛇伝説



聖徳太子がこの山上へ寺を建立された際に、白い鹿が現れたとされる伝記が残っており、白い動物は神の化身と崇められています。

この場所には白蛇の塚があったとされ、この白蛇は観音菩薩の化身といわれています。

⑦ 閻魔堂跡

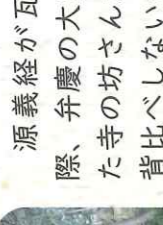
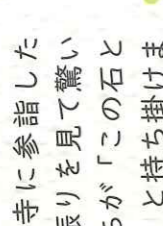
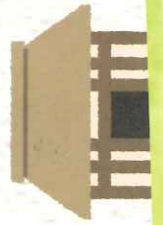


参道中腹には参詣者を見守る閻魔さまがおられ、清き心の持ち主のみその聖域の先へ進むことが許されていました。昭和50年に閻魔堂は境内の一角へ移築されました。

② 表参道大門跡



表参道の石段は約1000段で、本堂までの距離は八丁(約872m)です。石段の登り口から少し歩きますと大門跡があり、古くには聖域である境内と外界との境界を示す大門があったとされます。



⑭ 境内案内図

⑬ 磐座(いわくら)



磐座とは巨岩に神々が宿る座とされており、人々の信仰の対象となってきました。東より太陽が昇り我々の生活が始まり、西に沈む時にはその一日へ感謝を述べて磐座へお供え物を祀り、祈りを捧げたとされます。

⑨ 石垣(僧坊跡)



僧坊とは、山内で僧侶が住まいた小なお堂のことで、瓦屋禅寺には禅宗になる以前の華嚴宗の時代には24字、天台宗の時代には48坊があったとされます。現存している僧坊は無く、今はその跡地に石垣のみが残されています。

⑧ 聖徳太子の腰掛石



聖徳太子が険しい山中のこの場所ので休憩され、腰を掛けられたとされる石です。石碑には「文政十二年己丑初春 施主彦根京橋角 木綿屋吉平治」と刻印されています。

※③、④、⑤、⑬の写真と説明文は、次項にあります。

① 参道歴史案内図



瓦屋禅寺参道口

